



# よつばつうしん

〒567-0827 大阪府茨木市稲葉町4-5よつ葉ビル4階 Tel.072-630-5610 Fax.072-630-5606  
yotuba-renrakukai@luck.ocn.ne.jp http://www.yotuba.gr.jp/ 発行責任者：中川健二

## 新たな関係・仕組みづくりを足元から

関西よつ葉連絡会事務局長 田中昭彦

昔から台風や地震、津波などの自然災害が繰り返されてきた島国で、私たちに、その被害から何度も立ち上がり復興を果たしてきた歴史があります。豊かな農林水産業の資源と人々に培われた技術、災害の経験から積み重ねてきた知恵は復旧にむけての大きな力となっていたようです。

しかし、市場原理が病原菌のように蔓延した工業と(金融)経済優先の現代社会は、農林水産業を衰退させ、私たちがますます自然との直接的な関わりから遠ざけ、自然の中で生きていく知恵や技術を奪い去り、山村・農村・漁村で限界集落と呼ばれる地域まで生み出してきました。

た地域に数多く建設され、その中でも初期に造られた福島第一原発の崩壊によって拡散する放射能汚染は、震災復興の障害となつてい

るだけでなく、私たちの食や暮らし、健康までも蝕み始めています。

向けただけでも、これからさらに混乱した状況が続いていくと思われませんが、世界中がさらなる混乱の時代を迎えようとしています。

CONTENTS	
2面～3面	生産者紹介
4面	にんじんクラブ
5面	おたより掲示板
6面	職員の活動から
7面	視点論点・山下惣一さん
8面	祝島たより ほか

### 経験したことのない時代に

去年から、放射能から身(家族)を守るための食事や調理方法について書かれた本がよく売れているようですが、小さな子どもさん

がいらっしゃる方が心配するのは当然だと思えます。「よく洗って皮をむいて塩茹でし、茹で汁は捨てる」とか「米は胚芽に放射性物質が蓄積されるので玄米より白米で食べる」など、放射能から家族を守るために、本来あるべき食生活や調理の仕方とは逆のことばかり書いてある本が売れている一方

で、ちゃんと栄養を摂らないうと放射能による健康被害が出やすいので昔から食べられてきた日本食(発酵食品)の栄養とデトックス効果に期待した本も出ています。

どちらにしても「こうすれば安全です」といった決め手(科学的な根拠)は薄く、巨大な人体実験の器の中で現実的な選択を常に迫られ続けている日常が常態化してきているといったところでしょうか。

そんな状況の中、何の反省もなく生命さえも軽視しているのかのように、「国益」と称して停止している原発の再稼働を皮切りに再び原発の輸出を推進しようという動き、農業に限らず医療や保険などあらゆる分野で「自由化」を推進するTPP(7面に関連記事・編集部)へ参加する動きが進んできています。

いま「食」と暮しに目を

### 被災地支援活動の継続を

2011年は震災の被災地・生産者への具体的な支援活動を、全国の生産者や会員のみなさんたちからの義援金や物資のカンパなど、様々な形で進めてきました。

また、秋には被災した生産者や支援していただいた全国の生産者のみなさんに集まってもらって「よつ葉交流会」を開催しました。開催地が神戸で、しかも屋内での大規模な交流会は初めてのケースだということはある

でしたが、一昨年の春の「よつ葉交流会」の反省を踏まえて改善された点も多く、参加された生産者や会員ボランティアの方からは「参加してよかった」という声が多く聞かれました。

支援活動はまだ終わった

今年も昨年と同様に、これまでの基本姿勢を堅持し、市場経済中心の社会システムとは異なる生産・流通・消費の新たな関係や仕組みを足元から作り直していくことを目指します。

持続可能な農業や畜産、それを支えていく食品加工のあり方を追求し、私たちの生産現場における具体的な課題に取り組むこと。地元や全国の生産者と交流し、共同事業の取り組みを進め、「食の大切さ」を感じてもらえるような商品企画、カタログづくりを目指すこと。会員のみなさんと

よつ葉の事業(運動)を継続しながら、よりよい食と社会のあり方を求め、コツコツと地域の実態づくりに励み、希望を紡ぐ仕事ができたらと願っています。

みなさん、今年も関西よつ葉連絡会をよろしくお願

いします。

いします。

いします。

いします。



昨年は、石巻・高橋徳治商店はじめ被災生産者の現地支援活動によつ葉関係者延べ55人が参加